

分散会 協議記録

< 北海道・東北ブロック >

前年度の反省

【ブロック広報について】

【現状】

- ・今年も福島が担当県だったが、広報の係もメンバー達自体も都合が合わず、会内の会報だけに留まってしまった。「ブロック広報」に追いついていない。
- ・連絡があいまいで、行き渡っているかさえわからないのが現状です。

【問題点】

定例会自体に人が集まらず、広報の内容の話し合いも、書く内容もなくなってしまう。リーダー達の「やることがある」ということを意識することの低さ。先を見越した行動が出来ていない（進学等で参加困難と解かっているのに重要な仕事の受け持ち、引継ぎをしない）。連絡があいまいで前年度広報作成県がバックアップするというルールが守られず。発行したあと受け取ったかどうかの確認ができていない。研究大会後の事後報告書さえ各県に届いていない。内容が「ブロック内情報交換」にほど遠い。

【改善点】

について

【県内で立ち往生の今、（福島）ブロックもどうにかフォローできないだろうか？】

折角研究大会で仲良くなったのだからマメに声をかけてみたり、普通に友情を育て、リーダーの会話もするように自然に触発してみてもどうだろうか？
ブロック「研究」と「交流」の意義を再確認する。

について

【連絡網について】

その場ですぐに連絡網を作成し、広報に関する責任者を立て、皆の前で報告してしまう。会のみんなが気軽に、確実に連絡がつく人もキーパーソンにする。

指導者の間でもネットワークを作成してみてもどうだろうか？

広報も事務局あてに送り、同時に指導者たちにも直接送れば、事務局で止まることはないのではないか。

について

【今後の具体的活動】

県内のことで精一杯なら、他県にまわす柔軟性も必要ではないか？

もう一度福島がやってみるべきか、それとも山形に引継ぐか。その時、サポート県はどこに設定するのが問題。

【PR 活動について】

・ **秋田県**

編集し、よいものができたら、指導者の講習会で流すかは未定。

・ **山形県**

撮りだめはしたが構想があいまい。このままではただの映像を流すだけになってしまうので、一度白紙に戻して再度考え直し来年完璧なものを持参する。

・ **岩手県・青森県・福島県**

作れず。来年度に向けて少しずつ会自体も立て直し。

・ **北海道・宮城県**

作成中

次回北海道・東北ブロック研究大会について

平成 17 年 10 月 8 日～10 日・・・青年の家

- ・ 月 1 回定例会を持ち計画。
- ・ 前回は好評だった為、参考にする。

・ **内容**

- ・ グループワークトレーニング、テーマ別協議ディスカッション
- ・ 交流会（野外炊飯）、創作ダンス、レクリエーション
- ・ 早朝活動（ラジオ体操、English Version）
- ・ 朝食の時間（他団体）散歩

・ **持ち物**

- ・ 軍手、虫刺され防止グッズ、レクリエーション 3 つをレジュメにして作成、送付。

< 関東ブロック >

【去年、関東リーダー研究大会に参加してみた】

- ・HK 法については全員の意見が言えたのだが、グループの共通理解がないままの発表だったので全体でのまとめができなかった。
- ・情報交換の場が欲しいことと、去年のディスカッションの場が少なかった。
- ・リーダー研究の流れについては、研究大会の意図が分からず、みんなで作っていくものなのに、主催県にまかせっきりだった。

【今後の課題】

- ・主催側に任せっきりだったので参加側の「やる気・サポート」。
- ・テーマディスカッションの時間が少なかった。

【今年のリーダー研究会】

- ・今年のリーダー研究大会ではディスカッションの時間を多くとり、より内容の濃い、リーダー研究会にしていきます。
- ・これからの引き継ぎの仕方は、各県の会長の連絡網を作成し、県ごとに連絡を取りあい、事前に打合せのような形をとってもらう。またホームページを作りたいと思っている。
- ・参加者の増加については、県の会長 1 名、副会長 1 名、新人 2 名ほど増加については、今年来て、来年卒業ではなく、若い人に来てもらい、2 年、3 年とできるだけ長い期間に（続けて）参加してもらいたい。（リピーター）
- ・引き継ぎについては、過去の資料のコピー（報告書）を回覧板のような形でまわしていきたい。

<北信越ブロック>

【前回の研究大会の反省と、今回どのような研究大会にしたいか？】

- ・中学生、高校生以上の年代別の話し合いはよかった。
 - ・何年か来る人、新しく来る人が固まる事なくみんながちゃんと交流できる場にしたい。
 - ・幅広い年齢層のコミュニケーションをいかに図るか。
 - ・班にこだわらず、上下関係なく交流するためには？
- (各県2つ以上のレクを持ちより、上下関係なく交流できるように企画する。)

【テーマディスカッション】

方法：テーマを年代別にして、それぞれ中学生2グループ、高校生以上2グループに分かれ、同じテーマでどれだけの意見を出し合えるか。

【テーマ】

中学生・・・「リーダーとは...リーダーとして、今していること、これからできること」
(今の自分自身のリーダーとしての現状を振り返ることにより、これからもっと出来ることを話し合えるのではないか)

高校生以上・・・「リーダー会の現状とこれからの展望」
(問題点をあげて、改善策を考える。)

日 時：平成 17 年 11 月 12 日(土)～13 日(日)

会 場：国立妙高少年自然の家

参加県：新潟、長野、石川、福井、富山の北信越ブロック 5 県

日 程

11 月 12 日(土)

13:00～13:20 受付

13:30～14:00 開講式

14:00～16:00 レクリエーション
(各県2つ以上のレクを持ちより)

16:00～17:30 ディスカッション

18:00～19:00 夕食

19:30～20:30 天体観測

(雨天、プレイホール)

21:00～22:00 入浴

22:00～ 消灯

11 月 13 日(日)

7:00～7:30 朝のつどい(新潟主催)

7:30～9:00 朝食・清掃

9:00～11:00 ディスカッション

11:00～11:30 記念撮影、記念品作成

11:30～11:45 閉講式

11:45～12:30 昼食

<東海ブロック>

【反省点】

- ・東海リーダー研究会の中で決まった班、決まった議長がいなかった。
- ・場所の悪さとディスカッションで他の班の意見を聞く場がなかった。
- ・障害者に関する内容のテーマを3回行った結果、実際障害者の立場にならないとわからない事が学習できた。

【改善策】

- ・次回は議長を明確にすること。場所は、次回の県（三重県）に考慮してもらい、意見を聞く場としてはプログラムを調整し、次回はテーマを変える。
- ・要望として期間の延長（リーダー）。理由として、東海メンバーの交流を深める為。研修会でまとめの時間が少なかったから。
- ・次回取り入れて欲しいもの・・・ラジオ体操
(理由) スポーツをするものとして正しいラジオ体操の知識が欲しいから。

<近畿ブロック>

【反省点】

事後のアンケートを採っていなかった。

【今後に向けて】

- ・参加人数を増やしたい。
- ・リーダーと指導者のディスカッションの場を設けてほしい。
- ・ブロック大会の日時を6月にこだわらなくても良いのではないかと。
- ・各府県事務局からも参加して欲しい。
- ・予算を増やして欲しい。

「参加人数を増やしたい」について

- ・基本はリーダー2名、指導者1名、リーダーの2名は、現会長と次年度会長候補となる者。案としては、リーダーの人数が決まっていると行きたくても行けない人がいるので参加費を自己負担して行けるようにしたら良いのでは。ということだったが、結果的には、自己負担での参加は難しいということになり、その理由として、各府県の参加人数に差があるので、予算内で参加人数を増やせるのなら、増やす。
- ・来年度には、このような意見を参考にして、奈良県内のリーダー、指導者で話し合い、より良い大会にしたいと思います。また来年度の奈良、再来年度の和歌山で近畿一巡するので、方向性を大きく変えるのなら、二巡目から変えられるように、今後近畿内で一致団結し話し合いを進めていきます。

< 中国ブロック >

【ねらい】

継続的に研究大会が行えるようにするため、各県での引き継ぎ方法を模索する。
研究大会の目的をはっきりさせ、今後の研究大会を理解しやすいものにする。

【研究大会はディスカッションが活発でなかった】

- ・ 課題が難しすぎた。
- ・ 意見がまとまってなかった。
- ・ 目標、目的がはっきりしていない為、各県での事前協議や下準備ができずに参加者まかせの大会になっている。誰が参加しても、意義ある会にしていきたい。

研究大会の目標・目的

- 「10年後の中国ブロック大会はどうなって欲しいか・・・」
- ・ 「楽しいから参加したい」と思うような大会にしていきたい。
- ・ 各県の問題点を議題に挙げて、話し合ってみたい。
- ・ 年2回（レク係・研究協議係）

【しかし大会の目標、主旨は元々あった。】

- ・ 中国ブロックの研究大会が中国ブロック交流大会と日程をかませているのは理由がある。
- ・ 交流大会は中学生が主、研究大会は高校生～大学生が主
（お互いがお互いを見て高めあう。）
- ・ 視察、中に入って一緒に運営をして、それを元に協議を進める。
（各県の現状を見て発展のために話し合いをする。）

来年度に向けて。【広島開催】

参加人数を増やす。今回、日程が夏休みから外れていたため、人数が少なかった。
（夏休み中に開く）

レクの研究をする（せっかく同じ日程で交流大会をやっているなのでそこで実践する。）
最終的な目標として各県のリーダー会の活性化させる。

< 四国ブロック >

【問題点】

- ・ 事前準備をするときにリーダーがあまりいなかった。
- ・ ディスカッションで意見の言っていない人がいる。
- ・ 一部の人しか話し合いをしていない。

【改善策】

- ・ 連絡網をつくる、事務局からだけでなく団の指導者からも連絡してもらう。
- ・ リーダーに自覚を持たせる。
- ・ 参加する前に一人一人に目標を持たせる。
- ・ 開催県だけでなく参加する県も事前研修をする。
- ・ 一人一人が良い環境をつくり、率直な意見を出す。

【連絡方法】

- ・ 事務局からハガキを出す。誰が参加するかわからないので。

< 九州ブロック >

- ・ 九州の各県の問題を抱えているということで、アンケートを採りました。リーダーと指導者と別々に3つのテーマで話し合いました。
- ・ 本来でしたら、9月に行う予定でしたが、台風などの接近などで、12月に変更し12月は沖縄県のジュニアリーダーズスクールをする予定を研究大会にあてました。
- ・ なぜ？参加者人数が少ないのか？では、日程などで急に参加できない人がいた。それと台風などで当日キャンセルなどもいたので、予算があまり無かったから。
- ・ リーダーバンクはまだ活動していない。理由として各県ごとにリーダーバンクの意味を間違っていて、多少混迷している。
- ・ 佐賀研究大会では、前々から話が出ていた九州 T シャツ作りを創作活動の時間にしたと思います。
- ・ 各県の現状は、ジュニアリーダーの件で、大分は、宮崎と鹿児島は、新聞などを作ったりして、アピールしている。しかし、宮崎は入りたい子がいてもその団の指導者の認知度が低く入れなかったりする。しかも、親の認知度が低かったりする。認知させるため子供たち、指導者、親へのアピールを各県が行う。
- ・ 市町村リーダー会では、宮崎はありません。福岡は、市町村リーダー会をちよくちよく作っているのですが、まだ盛り上がっていないというのが現状です。鹿児島は、盛り上がったりののですが、打ち上げ花火のように終わったりしているのが現状。